サウーデ教会女性部会報

2013年　8 月　N° 276

８月　昼食会にて

目　次

		ページ
● 巻頭言	丹羽美香師	②
「世の光なるキリスト」		
● 特　集	平良節子	④
「救いのあかし」	崎山美知子	⑤
	山田初子	⑦
● あ か し	宮谷テル子	⑨
	山内佳子	
● 集会案内　「昼食会」		⑫
● 俳　句	松井明子　崎山美知子	⑬
● 詩	小原知子　益本藤子	⑭
● オススメの一冊		⑮
● おいしくけんこう		⑯
● おためしあれ		⑰
● 報告　●お知らせ　●個人消息		⑱
● あとがき		

巻頭言

丹羽美香師

「世の光なるキリスト」

創世記一章三～五節
ヨハネ一章九～十二節

［1］神は一番初めに光をお造りになりました。光はあらゆるものを明らかにします。私たちは目によって物の形、色合い、その他の事を見分ける事ができます。もし光が無かったら物を見ることができません。光があるから地上の草木の色とりどりの葉、花の色、また、鳥や動物のすばらしい姿や様子を知り、見ることができるのです。もし地上に光が存在しなかったら、私たちの生活は一体いかなるものでしょうか。そこにはただ、死そのものがあるばかりで、生命を見出すことはできません。

［2］光はあらゆるものを美化するばかりでなく、生命を与え、生命を豊かにするのです。

『全ての人を照らす真の光があって世に来た』
ヨハネ一章九節

と聖書は言っています。この『真の光』はイエス・キリストのことで、キリストは『私は世の光である』と申されました。そしてなお聖書は語っています。

『この光は闇の中に輝いている。
闇はこれに勝たなかった』
ヨハネ一章五節

キリストは世の光、真の光そのものであるのです。

〔3〕

『人々はその行いが悪い為に、光よりも闇の方を愛した。悪を行なっている者はみな光を憎む。その行いが明るみに出されえるのを恐れて、光にこようとはしない』

ヨハネ三章十九～二十節

この御言は実に人の性質の一面をよく見破った言葉ではありませんか。社会の中で行われている犯罪の大部分は夜か、または人目の届かないような場所で行われています。それは、自分が行っている悪事が現れないためです。そのような人々は、しぜんと日中に歩くことを避け、たとえ歩いていても裏道や、なるたけ人目につかないような所を選んで歩きます。彼らの心の中には決して平安は無く、恐れと不安が満ちているのです。しかし、そのような人々であっても大丈夫です。

〔4〕イエス・キリストを救主と信じて、光の君であるイエスに来るとき。

その人の心の中の暗黒は全く取り去られ、心に光が与えられます。

イエスは、

『私は光としてこの世に来た。それは私を信じる者が闇の中に留まらないようになるためである』

ヨハネ十二章　四五～四六節

イエスを信じる人々は光の中を歩むことを喜び、光を愛し、心は平安に満たされます。そして日々感謝と希望に満ち溢れて生きることができます。あの朝日の輝きのように、正しい生涯を楽しく力強く送る事ができるのです。

証集 特付

救いのあかし

とくしゅう

信仰の道へ導かれた
きっかけから現在について、
お話をうかがいました

平良節子姉　受洗日２００４／１２／２１

＊クリスチャンだった父は、日本人牧師の教会があった文化植民地へ入植

＊そこで生まれた私は2歳で幼児洗礼を受ける

＊毎週欠かさず礼拝（ポ語）へ出席

＊しかし、教会に熱心になることを嫌う夫に遠慮し、結婚を機にしばらくは大所帯の世話と仕事とに励む

＊夫が亡くなり、同植民地出身の菅原姉に誘われ年に1～2度サウーデ教会へ

＊他宗教信者の母を連れて行くにも、同植民地出身が多くいる当教会には「皆に会えるね」と気楽な気持ちにさせてもらえたので有難かった

＊その母も亡くなり、「もう独りになったんだから、そろそろ戻っておいで」と、菅原姉に言われ、すぐさま決心

＊その半年後、姉（故市岡愛子）と共に、改めて丹羽師より洗礼を授けていただく

＊やっと神様の許に戻って来れたという喜び

と、助かった（救われている）という実感とにあふれた

現在では、

＊なんとも言い得ぬ落ち着きを感じ、常にその中にいる安堵感がある

＊礼拝でのメッセージが、子供の頃に聞いた話と重なる度に、主の言葉は生きて内にあることを実感し感謝する

＊杖にすがりつつ、往復タクシーで毎週礼拝に出席している

祈りの課題

＊教会生活を全うさせていただけるように

◇

「教会から離れていた時も、主のお守りを感じられたので、どんなことでも苦労とは思わず乗り越えられることに感謝ができたのは大きな恵みだった。サウーデ教会は、実家に戻って来たような安心感をくれた。だから、自分の意思での受洗は自然な流れだった。いつかまた教会へと思っていたので、誘ってくれた旧友に感謝している」

家族の影響もあって、思うように教会生活ができなかった平良姉は、「今度こそ」と強く再出発の決意をし、今に至っている。だがこれまでも疑うことなくイエス様を信じ歩んでこられたのは、幼い頃から主の御言に親しみ、当たり前のように父親からの信仰を受け継いだからだという。

幼少から主の臨在を感じ、平安に満たされることは大きな大きな恵みであることを同姉に見、信仰の継承の尊さを教えられる。

崎山美知子姉　受洗日１９６３／

＊両親がクリスチャンで幼少より日曜学校へ

＊女の先生が教える賛美歌とお祈りが、自然と心へ注がれていった

＊気づくといつの間にかイエス様が心におられたので、信仰生活に何の疑問も抱かなかった

＊１７歳で渡伯（アマゾンの奥地）後すぐ、親が決めた一世のクリスチャンと結婚

＊それぞれの一族が集まり共同生活が始まる

＊周辺に教会がなかった為、義父が家庭集会をもち続ける

＊その後、アメリカ人宣教師に引き継がれ教会へと発展

＊そのお陰で４０歳を超えていたが、待ちに待った洗礼を受けることが出来、とても嬉しかった

＊語るに辛い事もあったが、ただひたすらに祈る中、救いの御業に守られ助けられ生きてこれた

＊１９８１年に夫が亡くなり、すでに独立していた子供を頼ってサンパウロへ

＊ほどなく俳句を始めた縁で平尾姉と親しくなり、サウーデ教会へと導かれる

現在では、

＊教会のみなさんは大らかで上下関係もなく親切。お交わりが嬉しく感謝

＊今が一番幸せだと年追うごとに感じる

＊先生方のメッセージに励まされ、心配事もなく安らか

＊最近、日語部に子供たちが増え、その笑顔に癒されている

祈りの課題

＊一族、教会、日本国の平和のために

◇

「共同生活は２０年以上続けられ、総勢３０人以上の大家族となったが、一度も仲違いすることなく助け支え肩寄せ合って生きていた。それは、信仰という土台が家族の中に築かれていたからだと心底思う」と崎山姉。家族の絆は信仰によって固く結ばれ、神様とのお交わりが生活の一部になっていたそうだ。その中で大人たちは常に子供たちの将来に心を配り、教育に信仰継承に心血が注がれた。それが報われ同姉は、実父からの信仰を孫の代までに受け継いでおられる。

山田初子姉　受洗日１９６０／５／２９

＊「うちの子は表面は強そうだが、芯は弱い。だから信仰を持たせた方がいいだろう」と、夫は息子たちに教会行きを勧める

＊マリリアの田舎から教会があるマリリアの町へと移り住まわせたが、心配になり土地を売って一家で町へ

＊早速、教会を訪ね、「男の子ばかりですが良いですか？」とたずねると、「ご両親も一緒に来てください」と牧師に言われる

＊すぐに牧師たちが我が家に来て、神様の話をしてくださったが、さっぱり理解できなかった

＊しかし、「子供だけ預けるのは確かに勝手すぎる」と夫は考え、家族全員で教会へ

＊その年内には牧師に勧められ、まったく分からないまま受洗する

＊1～2年後、先にサンパウロへ出た次男の事故をきっかけに、一家でサンパウロへ

＊サウーデ教会に来て「いつ救われたか？」とよく聞かれたが、その意味が分からなかった

教会へ行くだけで良いと思っていた私を、ある姉妹が祈りによって導いてくださった

＊それから祈りを重ねつつ示された罪を一つずつ悔い改めていると突然、イエス様の幻を見て、救いの恵みを確信した

＊それは、イエス様がボロ雑巾（罪）を一つずつご自分の腕に乗せておられた

「ボロ雑巾は私の罪だ。赦された」嬉しくて飛び上がり走って牧師に報告に行く

＊それからは、教会内の全ての集まりや行事に参加し、牧師にもついて歩くようになり、夫婦それぞれに奉仕もたくさん与えられた

現在では、

＊子供たちも教会から離れることなく安心

＊他の教会の方々からも声をかけられ嬉しい

＊喜びをもって奉仕を続けられることに感謝

祈りの課題

＊責任を持って奉仕を全うさせて下さるように

◇

山田姉は、長きにわたり台所での奉仕を任され、活花にいたっては現在も努め励まれている。

「無学な者が５０年以上も続けて奉仕できるのはすべて主の憐れみ。常に教会そばに住まわせてくださり、家族の理解を得られたからこそ。その恵みは大きかった」

何も分からないまま始まった信仰生活だったが、すべては神様が備え、導いてくださっていたことを感じているという山田姉。

ある牧師からの「救われ、聖められて、これからが本物の信仰生活に入ります。サタンが働きますから気をつけて。傲慢になったらいけません。主の恵みを落とすことになる」との言葉を今も戒めに奉仕に励んでおられる。

天に召されて

あかし

山内　佳子

夫53歳、腎臓ガンで亡くなりました。1987年9月のことです。末期ガンと診断され、単身移民だった夫は、日本での治療を私の父に勧められ、日本へ行きました。そして、手術を受け、生まれた家で「神の定めた命ならそれでいい」と聖書を読み祈る静かな生活を送っていました。

最後となった夜のこと。一人では身動き取れない夫は、「寝るのが苦しいから」と、私を支えに前に積んだ布団に寄りかかり、私は呼吸に合わせ背中を上下にさすっていました。

「今、何時かね？」「4時です」

「少し楽になったから、横になりなさい」

「いいえ、私は大丈夫です」

「すまなかったね。ありがとう」

「いいえ、今度は私が病気になったら、このようにして下さいよ」

「うふふふ…」と、夫は笑いました。

「早く6時にならないかな」

「どうして6時に？　病院へ行きたいのですか？」

「いいや」

夜が明けてきました。机の前に移ってもらいました。新しい水を持って来るからと台所へ行き、そこへ義兄が起きて来ました。「具合はどうですか」「夜、寝ていませんから救急車をお願いするかもしれません」と告げ、部屋へ戻りました。その間おそらく、5分程度だったと思います。机の前に座っているはずの夫はそこにおらず、布団の枕に頭をのせ横たわっていました。その浴衣の袖や裾に乱れはなく、シワひとつ見られませんでした。短い人生となった夫を思い、涙がこぼれましたが、その場はとても聖められ、平安に包まれていました。御使いたちが整えてくださったのですね。—神様の許に召されたので、気落ちしなくて良い。信じて進みなさい—

不足はありましょうが、夫の信仰を神様はご覧になり、このように取り扱ってくださったのだと思っています。そして、不思議な御業を通し、ご栄光を私に示してくださったのだと感謝しています。

義兄を呼んで北枕に直したりと支度を整えていました。時計を見た義兄は、「少し時間が経ったから、6時ですね」と、亡くなった時間を確認しました。そうです。夫が待っていた時間です。

ある見知らぬ婦人から、「キリスト教の葬式は初めてです。先生のお話よく分かりました」と、言ってもらいました。夫は最後の証しをして、天の御国に行きました。

昼食会

集会案内

毎月　第1日曜日
午後12時30分～

おふくろの味、ここにあり！
旧女性部

「楽しいお交わりを！」と、40年以上前から続けられている昼食会。きっかけは、男性会が発足し、集会に残られる男性方に簡単な昼食をお出ししたのが始まりでした。奉仕は3名の婦人があたり、食べられる方も少人数でしたが、だんだんとその人数が増えていき、いつしか集会の一つとなりました。そのうちに敬老会や年末感謝祭（愛さん会）といったさまざまな集まりを設けご奉仕してきました。

厨房にはいつも、「今日のご馳走はなに？」と口をはさみ、手を貸す人が次々におとずれ、それはそれはにぎやかでした。

談／作間栄子姉・山田初子姉

感謝なことにいつの時代にもみなさまから多くの食材が献げられ、それらを上手にやりくりしながら、野菜中心のおいしい和食を低価格でご提供してきました。その精神は、今のマルタ奉仕部にも引き継がれています。

8月4日の献立

＊かす汁
＊焼き魚（味噌漬け）
＊白米
＊香の物
＊ぽんかん

かす汁
野菜の甘みと、十分に塩漬けされた魚の粗からのダシが決め手。

焼き魚（鱒・鰹・鯖）
みりんで伸ばした白味噌に金曜から漬け込んだという絶品。

チームワーク抜群の奉仕者が手際よく準備から配膳、片づけを行っています。また、材料を無駄なく使い切る、ゴミ処理や節水などの環境に配慮するなど日々の「主婦力」を集結し奉仕にあたっています。

味付けはご年配や小さい子供たちに配慮し、塩と油を控えめに。たっぷりの野菜と、旬の食材を積極的に取り入れた身体にやさしいお料理です。テーブルを囲みながら食すおふくろの味。みなさんで楽しく嬉しく和やかにいただきましょう♪

俳句

松井　明子

● 寒鰤や料理の前の一と談議

● 冬耕や鍬の重さに戸惑いぬ

● 寒菊の背伸びしている畑の隅

短歌

崎山　美知子

● 亡母の歳はるか越え姉妹共々に
敬老の祝受く主に見守られ

● 教会の友はうれしも大らかに
地位の差別も貧富の差もなし

詩

小原　知子

「花には、花の」

色に形に佇まい
それぞれあって、
それぞれに
弁え知って　咲き誇る
ごめんなさい
あなたの名を知りません
いいのです
あの方はご存知ですから
小さきものは
ただ、じっと
たわやかに雨風受けて
天を目指す

益本　藤子

生活と　魂　をもって
恵みのうちに　主に仕えることができる
なんという　しあわせ

思い　煩　いやめなさい
キリストは　我が友
我が　はらから　これ以上の保障なし

八木　重吉

1898～1927

「ゆるし」

神のごとくゆるしたい
ひとが投ぐる　にくしみを　むねにあたため
花のようになったらば
神のまえにささげたい

「朝祈る前に」

水野　源三

1937～1984

朝祈る前に　夜寝る前に
神は愛なり　神は愛なりと
心の中で　となえてみよう
涙ぐむ人に　うなだれている人に
神は愛なり　神は愛なりと
祈りをこめて　話しかけよう

苦しみの夜に　悲しみの時に
神は愛なり　神は愛なりと
まぶたをとじて　思いめぐらそう
御恵みによりて　集まったならば
神は愛なり　神は愛なりと
声を合わせて　賛美しよう

オススメのいっさつ！

サウーデ教会内にある本をご紹介します
どなたでもご自由に借りられますのでどうぞ、ご利用ください

書籍名　「わたしの好きな　みことば」
日本聖書教会発行

一般の方から最も大切にしている御言と、その理由や御言への思いを募集してまとめられた本です。一つ一つの御言に、世界の美しい風景や草花のカラー写真が添えられている写真集のような一冊で、まるで御言が迫ってくるようです。解説やメッセージはありません。ただ、ひと言その御言を選んだ理由や思いが書き添えられています。字体も大きくルビがところどころにふられていてとても見やすくなっています。

4つのテーマ〈感謝のとき／困難に向かうとき／確信を得たいとき／折々に〉にわかりやすく分類されています。

さらなる霊の満たしに、魂の休息に、伝道にオススメの一冊です。また、俳句や短歌を詠まれる方には、創作意欲を掻き立てられる一冊かもしれません。

あとがきより～

「この本が、まだみことばを知らない方々に届けられて、聖書を人類に与えてくださった神様からのまことの喜びをお知らせすることができますように」

☆編集部までお問い合わせください
みなさんのオススメの本の情報をお待ちしています

おいしく　けんこう

血液サラサラ　 　たまねぎ

万能ドレッシング

＊作り方＊

①、玉ねぎ２コを薄く半月に切る（スライスする）
②、広口のビン（コーヒーの空き瓶など）に、
　次の材料を入れる

・砂糖 - 大さじ３　　・塩 - 小さじ２
・酢 - コップ４分の３　　・油 - コップ４分の３

・みりん
・酒
・醤油
　それぞれコップ半分
　（コップアメリカーナ）

③、②のビンに①の玉ねぎを加えてよくふる

＊食べ方＊

★そのまま、食べてもよい
★刺身の盛り合わせを加え、白ゴマと青ネギをまぜて
★お豆腐にかけ、花かつおと刻み海苔をかけて

＊保存方法＊

出来上がったら冷蔵庫に入れて保存してください
必ず一晩おいてから使いましょう
味がなじんでおいしいですよ！

おためしあれ！

カフェーの"かす"の有効利用

乾燥させたかすは、さまざまに利用できます！

1、脱臭剤

・冷蔵庫へ置く　～　生臭さなどに効果的

・灰皿へ敷く　～　タバコの吸殻の匂いを消すために

・台所の生ゴミへ撒く

2、肥料

・酸性土を好むバラ・ツツジ・常緑樹などの土にかける

3、さび止め

・酸化防止の効果があるので、刃物類のさび止めに

針刺しの綿の変わりに、かすを用いる

4、アリよけ

・アリ退治に効果的

通る場所へまいたり、置くだけで来にくくなります

☆くわしくお知りになりたい方は、編集部まで

みなさんの「くらしの知恵」をおよせください

報告　ほうこく

＊5月5日

受け入れ式　吉崎美知恵姉

洗礼式　山内佳子姉

＊連合女性会　一日研修会

5月30日　午前9時～午後4時

テーマ　「信仰の継承」

聖　句　第二テモテ1章5節

開会礼拝／大嶋緑師

本題講演／神野信治師(ホーリネス・ニテロイ教会)

閉会礼拝／丹羽美香師

総出席者81名　(当女性部より24名)

＊連合女性会例会

6月30日　午後2時～　サウーデ教会にて

第1部　ご用者／園田アンナ姉

第2部　あかし会／有志の方々

おしらせ

＊連合女性会　例会・総会

9月29日　午後2時～　サウーデ教会にて

第1部　例会　／　第2部　総会

個人消息　しょうそく

＊召天者

倉内孝一兄　7月8日　(享年93歳)

日野イマ子姉　7月21日　(享年90歳)

あとがき

特集〈救いのあかし〉が好評で、伝道に用いてくださっている方もあり感謝です。次回は12月発行予定です。どうぞ、あかしをお寄せください。聞き書きもいたします。いただいた恵みの体験を多くの方に届けませんか？　お待ちしています。